

【評議員会議事録】

日 時：2007年9月27日（木）12：30～13：40

場 所：岐阜大学全学共通教育棟1階第1会議室

出席者：家，梅村，佐藤，谷口，山本，井上，岡村，海部，郷田，柴田，須藤，中川，宮川，渡部 以上14名

評決状提出者：安東，池内，大橋，観山，永田 以上5名

他に理事会から土佐理事長，國枝，柴橋両副理事長，花岡，高田，北本，田村，中本理事，および東條事務長が出席した。

議事に先立ち，議長に柴田氏，署名人に佐藤，渡部両氏を選出した。

報 告

1. 前回議事録の確認

高田庶務理事より前回議事録として資料1が示され，了承された。

2. 開催中の年会・その後の年会について

開催中の秋季年会について中本年会理事より口頭で報告が行われた。記者会見には新聞社4社が参加，他に1放送局から資料提供の要請があったこと，セッションの初日にはさらにもう1放送局による取材があったことも報告された。記事は新聞3紙ネットにおいて2件の報道があったこともあわせて報告された。また，2日目午前中までの登録者数は815名で，プロジェクターとPCの接続に関して初日に若干の問題があったものの，年会は順調に進んでいることが報告された。今後の年会について高田庶務理事より口頭で報告が行われた。2007年3月の東京での春季年会について，現在開催地理事の嶋作氏を中心として会場での運営方法の下見が分担されて行われており，準備を進めている点が報告された。また，2010年春と秋の年会開催地について現在複数の候補地と交渉中であり，本年会を含めて交渉を進めるつもりであることもあわせて報告された。

3. ロゴの商標登録と記念切手について

学会ロゴについて，北本会計理事より口頭で説明が行われた。本年会の総会において表彰を行う予定であること，優秀賞の方1人しか表彰式には来ないこと，最優秀賞の英語版の商標登録申請中であり，半年ぐらいで判断が出る見込みであることが報告された。

また，天文学会100周年記念切手の進捗について北本会計理事より口頭で報告が行われた。デザインについては現在郵政公社で検討が進んでいる点，切手の完成・発売に関する記者発表に関しての調整はまだ進んでいないこと，公開天文台などでの販売を検討していることが報告された。3月21日に発売予定で，通常，発売1から2カ月前に記者発表をやっているとのこと。なお，切手のデザインについては，最新の天文学の状況を反映したものであるべき，という強い意見が複数委員から出され，至急，理事長から天文学会として郵政公社に対して状況説明を行い，デザインに反映させるように働きかけることとなった。

4. 百周年記念式典等の準備状況について

柴橋副理事長より配布資料に基づいて，百周年記念式典等の準備状況について報告が行われた。現在の想定では，式典参加者については事前登録制にして行う予定であること，招待者等については現在検討中であり，11月までには確定する予定であることが報告された。また記念講演会の対象聴衆について委員から質問が出され，一般もある程度（天文学会員に限るわけではないという意味）ターゲットにしている講演ではあるが，学会員が主な対象である旨説明が行われた。関連して一般向けには公開講演会を別途行う予定であることもあわせて報告された。

また，百周年記念および世界天文年に関連した記念展示の準備状況について國枝副理事長より資料4に基づいて報告が行われた。金沢工業大学と明星大学を訪問し，所蔵されている天文学の歴史を語るうえで大変貴重な書物について見学を行い，貸し出しについての調整を始めている旨，報告がなされた。金沢工大は積極的に貸し出したい意向を持っており，今後，保険料や湿度・温度管理の問題をクリアし

ながら更に調整を進めていく予定であるとのこと。また、巡回展については、名古屋および仙台の科学館が参加することが確定したこともあわせて報告された。

5. いわゆる「小委員会」設置の手順について

高田庶務理事より、小委員会の設置の手続きについて定款・内規集に基づいて説明が行われた。定款で評議員会での議決によって小委員会内規を決めることが記されているので、それに従うと、委員会設置に関する内規の一部に定款と整合性がとれないとも思える記述が一部あることがあわせて報告され、今後必要に応じて修正をすることも考慮していることが報告された。

6. その他

○ (1) 百周年記念出版の現状について

岡村氏より百周年記念出版の現状について口頭で報告が行われた。現在既に6巻が刊行され1巻は印刷中であること、2巻が最終作業中で、残り8巻のうち1巻だけが12月までに終わるかが不明であることが報告された。編集のノウハウの蓄積に問題があり、作業の効率が上がらなかった点が反省点であるとの指摘がなされた。

○ (2) 長期計画に関するシンポジウムについて

海部氏より、12月に予定されている学術会議による長期計画に関するシンポジウムについて口頭で紹介がなされた。佐藤氏を実行委員長としたシンポジウムで、今後の天文学における長期計画についての議論のきっかけにすることを目的としたシンポジウムであること、また、関連して、来春の年会において特別セッション等の形で議論をさらに深めることを想定していることもあわせて報告された。

○ (3) 学振の学会での説明会について

家氏より、前日に行われた学術振興会による学会における科研費に関する説明会について口頭で報告があり、約350名の参加者があり、会は成功裏に終わったことが報告された。

議 題

1. 早川幸男基金内規の改訂

栗木早川幸男基金選考委員会委員長の代理として北本会計理事より資料2に基づいて説明が行われた。半額援助について、その根拠を明記すること、援助対象費目の拡大を目的とした改訂をすること等が提案された。その後、修正案にはまだ表現が一部不明確な点があることが指摘された。特に、援助の対象と他の資金源からの援助の可否についての記述についてはもっと丁寧に書くべきであるとの指摘が複数委員より出された。また、今後の運用案については費目が多くなるので、査定が煩雑になりすぎるのではとの意見も出された。今後の運用案を見据える必要はあるが、改訂の方向性については問題なしということでは了承し、内規の文言について修正を待つこととなった。

2. 衛星設計コンテスト委員会に関する内規の制定

北本会計理事より資料3に基づいて衛星設計コンテスト委員会に関する内規の制定について説明が行われた。今後も継続的に衛星設計コンテストに共同主催者として参加していくうえで、学会側の受け皿が必要であるとの理由で本小委員会を設置することを議決してもらいたい旨提案が行われた。衛星設計コンテストと本小委員会との関係が内規案ではよくわからないので、第1条および第4条の記述について修正すべきである旨意見が出された。その他にも、本小委員会の性格が他の委員会とは趣が違うのではとの意見も出され、議論の結果、設置の可否は修正等を施した内規案を受けて、次回以降に議論して制定を決定することで合意した。

次回は1月26日13時よりの開催。会場は未定であるが東京駅近辺を第1候補として探すこととなった。

2007年10月26日

議 長 柴田一成

署名人 佐藤勝彦
署名人 渡部潤一